

2006年10月10日

30 市原 岳洋 (立命館大学 研究企画課)

31 松本 淳 (立命館大学 図書館サービス課)

## 平成18年度 学術ポータル担当者研修 受講後レポート

### (1) 発表資料の状況設定

本学で機関リポジトリを構築するため、常任理事会で合意を得るための資料として作成。研修会では教授会を想定した発表を行ったが、今回の資料は事務組織での合意を目指すという位置づけで、常任理事会に提起することを想定している。そのため所属する課の夏期研修会でリハプレゼンを行った。

### (2) 発表内容抄録と研修発表との改定部分など

#### 【構成】

1. 大学に求められているもの
2. 機関リポジトリとは
3. 機関リポジトリ誕生の背景
4. 世界の機関リポジトリ構築状況
5. 機関リポジトリの仕組み
6. 機関リポジトリのメリット
7. 対象となるコンテンツ
8. 研究者データベースとの関連性
9. 機関リポジトリの事例

#### 【改定部分】

『機関リポジトリ』に対する学内での知名度、認識が低いことから、機関リポジトリが誕生した背景を含めて機関リポジトリの紹介をするとともに、なぜ立命館大学がこの取り組みを始めなければいけないのかという点について、機関リポジトリと関連する高等教育機関、立命館大学の報告や計画の情報を豊富化させた。またさらにイメージを持ってもらいやすくするために、現在本学でリプレースを計画している『研究者学術情報データベース』との関連性や実際に機関リポジトリを構築し、公開している他機関の事例を紹介する資料を追加した。

### (3) リハプレゼンの概要

#### ①研究企画課・人文社会

#### リサーチオフィス合同夏期研修会

- ◆日時： 9月8日（金）
- ◆場所： 立命館大学会議室
- ◆発表者： 市原 岳洋
- ◆発表対象： 研究部専任職員
- ◆参加人数： 12人

#### ②図書館サービス課夏期研修会

- 9月4日（月）～5日（火）
- セミナーハウスクロスウェーブ梅田
- 松本 淳
- 図書館サービス課職員・契約職員
- 21人

### (4) リハプレゼンへの反響

#### 【研修会で出された意見】

- ・ “情報を世界に発信する”のであれば、登録言語やファイル等についてのルール（最低日英併記で登録など）を決める必要があるのではないか。
- ・ 既に本学で発信しているコンテンツとの調整をどうするのか。（機関としてどう束ねていくのかなど）
- ・ 既に発信している仕組みとリポジトリとの違いは何か（現在の仕組みへのアクセス数等のデータを基にした分析など）
- ・ データの管理方法（図書館で一括して管理するのかどうか）など、具体的な運用に関する質問。

### (5) その他

上記の（4）の意見を参考に、提起する内容をさらに具体化したうえで、常任理事会に提起し、2007年度中に機関リポジトリの構築、公開を目指す。

以上